「議会ほっとミーティング」における住民要望等の取りまとめ

1 開催日及び相手方

令和6年11月15日（金） 金ケ崎町老人クラブ連合会単位クラブ会長 13名

令和6年11月27日（水） 金ケ崎町商工会 12名

令和7年 2月10日（月） 黒沢老人クラブ 10名

計3回 35名参加

2 出席議員

延べ 18名

3 町に対する要望等

<金ケ崎町老人クラブ連合会単位クラブ会長>

- (1) 公共施設として高齢者の福祉施設としてつくられた「生きがい交流センター」を廃止し、現在まで町老連や高齢者団体が主体となって利用されているにも関わらず、民間に譲渡することは問題である。
- (2) 公共施設の譲渡は公共団体または公共性の必要がある場合に限られ、社会福祉法人愛護会は保育園だけではなく、様々な福祉事業を展開しており、福祉事業は公共性に見えるが競合相手があることから、今後少子化が続き園児獲得合戦が生じた場合、一方だけを優遇し譲渡すれば不公平になり、公平性に問題があり地方自治法に違反にならないか。
- (3) 「生きがい交流センター」の改修に費用をかけ、新たに園舎を建て替える財力があるのであれば、町が関わる必要がないのではないか。
- (4) 今後掛かるであろうとされた1億円超の管理運営費については、設置当初から解っていたことで、議論になるものではない。
- (5) 土地も全部譲渡か一部譲渡か不明である。公平性の問題で地方自治法に違反にならないか。無償譲渡の条例に合致するものなのか。
- (6) 介護予防政策は限度にきているとの当局の話であるが、介護予防政策には限界など無く、いくら介護率が低いからといって止めるのではなく、これからまだまだ高齢化社会が続くわけであり、続けていく必要がある。
- (7) 園児の利用は雨や雪など外で遊べないなど、便宜的・緊急的に利用させているもので、隣接であるがために利用者が園児中心になっているものである。
- (8) たんぽぽ保育園の年間行事で、収穫祭と誕生会には老人クラブ員も招待されて、園

児とふれあう幸せな機会をいただいている。

- (9) 「生きがい交流センター」の設置は当時の役員が町長にお願いして建てられたと聞いている。それから長年、町老連が指定管理を受けて管理運営してきたが、老人クラブ員の高齢化が進み、当時の事務局が退職するとパソコン操作に慣れない人が多く、運営管理が難しくなり、他の指定管理者に事務局を依頼してきた。しかし、今はパソコン操作に慣れたものが多くいるので指定管理を受ける事ができるし、受けたいと考えている。

<金ケ崎町商工会>

- (1) 南部茅は全国的にも質の良さで評価されている。生産量3位という利点をもっと活かす努力をされたい。
- (2) 空き店舗や空き家の利活用を更に推進されたい。
- (3) 国道4号の拡幅に伴い、周辺の開発計画（道の駅など）を中央分離帯が設置される前に示されたい。
- (4) 観光協会が抱える課題はイベントの継続性である。その側面支援を強化されたい。
- (5) コロナ禍で下火となった ILC 誘致を積極的に推進されたい。
- (6) カーボンニュートラルの観点からも、再生エネルギー企業を積極的に誘致されたい。
- (7) 後継者不足、少子高齢化、人手不足等、商工業を取り巻く厳しい環境への対策と、更なる創業者支援を強化されたい。

<黒沢老人クラブ>

- (1) 森山総合公園第2駐車場は、トヨタ自動車東日本(株)硬式野球部の室内練習場とするために令和5年度から貸与しているため、現在使用できない。野球や陸上競技等の大きな大会がある際、駐車スペースの確保が大変であることから早期に代替駐車場の整備をしてほしい。
- (2) トヨタ自動車(株)が国内生産を東海地方から、東北・九州に20万台ずつ移管する方針との報道があった。収益性を考え岩手工場に大型車の増産、誘致をしてほしい。
- (3) 少子高齢化、農業後継者不足に伴い、耕作放棄地が年々増加傾向にある。生産性・収益性の高い魅力ある農業を目指すためには、農地基盤整備・農村環境整備が大事である。基盤整備事業の促進を図ってほしい。
- (4) 県道196号胆沢金ケ崎線（黒沢地区内）は、歩道が無く除雪時には道路幅が更に狭くなる。歩行する際に危険であることから、待避所も考慮した歩道の設置を県へ要望してほしい。

しい。

また、大型車両の通行が多いことから、制限速度を50kmから40kmに変更するよう併せて要望してほしい。

(5) 現在、みどりの郷は休業状態となっているが、管理状況が悪く防犯上も問題がある。県南唯一のスケート場の再開はもとより、働く家族のために高齢者や子ども達を預けることのできる施設として活用できないか、再建促進を図ってほしい。

(6) 生きがい交流センター譲渡の件に関連して、全国には老人クラブ、青年、女性団体協議会があるが、当町には老人クラブ団体のみである。町も何故このような組織・活動が必要であるのかを明確にし、目標をきちっと持って支援・指導してほしい。

<議員所感>

生きがい交流センターは、先達の皆さんがこれからの高齢化社会を見据えて、いち早く設置した経緯がある。団塊世代が後期高齢者になり益々高齢化が進展していく。少子高齢化社会にあって高齢者対策と子育て支援策はどちらも選択・集中すべき重要な施策である。町のマイナスイメージにならないよう、十分な話し合いと協議検討が必要である。